

附録：『日本海新聞』学童疎開関係記事一覧

〈凡例〉
 1 同日掲載の記事も、「見出し」ごとに分け、内容を載せた。 2 判読不明な字句は、「■■■■……」と記した。
 3 誤字、脱字は、その字句の末尾に「(ママ)」と附した。 4 日付、人数、数量の表記は、アラビア数字で統一した。

No.	出典(昭和)	見出し	内容
1	19.07.18	費用八割方を政府持一学童疎開促進要綱決る一	政府が、17日、「学童疎開促進要綱」「帝都学童集団疎開実施要綱」を発表
2	19.07.19	学童受入れに萬全一寺院、別荘等を宿舎に一	18日、地方事務所長会議で、県教学課長が受入協力をお願い
3	19.07.20	学童の受入れは山間辺土を避く	19日、県教学課長、県下の全視学が、具体案を協議し、宿舎・教室などの方針を決定する。
4	19.07.22	気高郡校長會一青谷で受入協議一	22日に気高郡内国民学校長會議を開催し、学童疎開などを協議する。
5	19.07.22	受入れ態勢促進一東伯軍(ママ)校長會調査開始一	20日、東伯郡校長會が、全面的に受入れを歓迎し万全なる準備を早急に完了することを決議。受入町村を指定。22日に、指定町村長、校長の會議を開催。指定町村は、収容可能施設の調査を開始。
6	19.07.22	東伯郡教育會一新発足を協議一	20日、東伯郡教育會が、学童集団疎開受入れ問題につき協議した。
7	19.07.26	疎開児童に温かい愛の手一大日本教育會の対策一	24日、文部省教育課長、東京都など受入先11県が、帝都学童の疎開後の教育方法などについて懇談。
8	19.07.28	集団疎開で協議一近畿行政協、中川副参事官來鳥一	27日、近畿地方行政協議會副参事官が鳥取に來県、集団疎開について協議懇談
9	19.08.01	疎開学童受入れに最善を	(判読不能)
10	19.08.03	疎開学園は呼ぶ(一)	疎開中の学童の生活の様子を紹介
11	19.08.05	疎開学園は呼ぶ(二)一昼寝で休養一	疎開中の学童の生活の様子を紹介
12	19.08.06	疎開児童への食品一実施と同時に立替配給一	農商省は、阪神地区の学童集団疎開に対しても、主要食品、味噌、砂糖などの配給が疎開開始と同時に実施されるように受入府県に対して、4日緊急次官通牒を発し、指令
13	19.08.06	疎開学園は呼ぶ(三)一船頭さんのお手伝ひ一	疎開中の学童の生活の様子を紹介
14	19.08.08	学童集団疎開に受入準備進捗一軍事扶助の方法を決定一	鳥取県では、宿泊所の調査を完了する予定。疎開児童の内、軍事扶助を受けている者に対する扶助方法を決定。
15	19.08.09	疎開学園は呼ぶ(四)	疎開中の学童の生活の様子を紹介
16	19.08.12	疎開は逃避ではない	「そ開は逃げ腰になれといふのではない」「そ開は国民の戦間配置である」
17	19.08.15	鳥取市学校長疎開受入協議	16日に、学童集団疎開などにつき、鳥取市内各国民学校長が協議
18	19.08.15	「一日お母さん」一疎開学園に日婦出勤一	大日本婦人連盟が、寮母のないところ、足りないところに「一日お母さん運動」に乗り出す
19	19.08.20	童心に隔てなし一就将校に疎開児童50名一	米子市の縁故疎開児童が50名
20	19.08.20	萬事に親心を一集団疎開受入地を決定一	18日、鳥取県は、受入割当を実施。出来るだけ鉄道沿線の市町村を選択する。本月下旬頃、先遣隊の疎開に続き、9月上旬に受入を終る予定
21	19.08.24	地方事務所長当面問題會議	22日、地方事務所長會議で、学童集団疎開受入に関する件などについて協議
22	19.08.25	さアお出でなさい一学童疎開に米子市万全一	米子市での配置先は、福生校及び角盤校にそれぞれ百名宛、就将、義方、啓成、明道の各校に各々50名宛と決定、宿舎は目下交渉中。
23	19.08.25	疎開地のヨイコに雑誌配給	日本出版配給統制株式会社が、集団疎開学童に対する少国民(ママ)向出版物の計画配給を行う
24	19.08.26	学童集団疎開に自宅を提供	鳥取市では、学童集団疎開400名の宿舎として、天徳寺、最勝院、興禅寺、大隣寺、芳心寺、真宗寺等に交渉し、決定の見込み。鹿野街道田中重兵衛氏は自宅を提供すると申し出
25	19.08.27	青木誠四郎「疎開児童を迎へて一受入れ側の心構へはかうして一」	「国家の子供をいかにして育てるかに協力する態度であらうたい」(青木は、日本青少年教育研究所長)
26	19.08.27	学童集団疎開一受入態勢は完整一	東伯地方事務所、受入準備は大体完了。受入対策委員會を設置、問題一切を解決する機関として、決戦下の子供を守り育てる。
27	19.08.27	学童疎開に万全一受入対策協議會一	鳥取県は県下各市町村に学童集団疎開受入対策協議會を設置し、受入方針と運営について協力させる
28	19.08.27	準備は出来た一疎開学童よ何時でも来れ一倉吉町受入割当て	倉吉町は、約300名の受入を決定。25日、宿舎割当の協議會を町内の寺院、料理店、旅館主等を集めて懇談。畜産組合50名(以下、略)など、割当を行う。
29	19.08.27	疎開現地調査一神戸市から來県一	現地調査のため、兵庫県視学・神戸市視学の一行が28日に來鳥、県教学課當局と協議懇談の上、県下各地方事務所を訪問、宿舎の受入計画などについて具体的な打ち合わせ、受入現地調査を行う。本月末日まで滞在の予定で、調査の結果、最終決定を見る筈。
30	19.08.30	学童疎開地を決定一神戸市から2,700名一	28日、兵庫県の視学官・学校長ら15名を迎え、鳥取県内政部長・県教学課長らと協議懇談の結果、本県疎開先の最終決定をみた。鳥取、米子、日野の二市一郡に対しては実施せぬこと(鳥取は震災の關係、米子は軍都計画の關係等を考慮して、兵庫県當局から自発的に遠慮)、2699名の受入を決定。來県の一行は、29-31日に疎開先の実施調査を行い、宿舎と受入人員の検定をみることとなるが、結果によっては割当の移動もある。(以下、各郡の割当の記載あり)
31	19.08.30	神戸市視学等西伯郡視察	29日、米子市に兵庫県視学官、神戸市道場国民学校長が來鳥。尚、集団疎開(ママ)に依って、西伯地方へは、澁江町200、御米屋100名で、米子、日野郡は疎開せずむこととなった。
32	19.09.01	澁江町受入一神戸から200名一	8月29日、澁江町に兵庫県視学、道場校長が來町し、打ち合わせを行い、宿舎等を視察。疎開児童の來町が確定した。
33	19.09.02	まったく申分ない一文相疎開児童へ思ひやり一	文相ら、埼玉・群馬の疎開状況を視察。

No	出典(昭和)	見出し	内容
34	19.09.02	名和公の遺風―御来屋町受入れに万全―	御来屋町では、大豆やソバを提供し、オヤツで元気を付けよう。また、日婦会員は、れう母として来る人々を助けて何事にも奉仕しようと手管などを協力している
35	19.09.02	良き寮母中心に―澁江町、200名に施設―	澁江町では、寮母を中心に万全を期するはず。れう母は、旅館並びに民家の主婦たちが殆ど女学校出身程度の有能な人たちで、疎開先から附添ってくるれう母とこれらの人々の応援により、また出征軍人家族などの有志をれう母に迎えて、保育第一の準備をすすめている。
36	19.09.02	疎開学童に理想境―東伯郡の受入準備成る―	東伯地方事務所を中心に「東伯郡学童疎開対策委員会」を結成し、爾来、受入態勢準備に努め、29日には疎開地神戸市から視学、関係校長らの視察調査隊を迎えて更に実地につき協議懇談した。(以下、倉吉町・矢送村・三朝村・松崎村・浅津村・八橋町・由良町・赤碓町の準備状況を紹介)
37	19.09.05	戦ふ童心の育成へ―東伯郡学童疎開に親心―	「児童疎開こそ皇國の勝利を願ふ」童心の戦ひである。[寮母と作業員](問題は、作業員、目下募集中で家族の少い出征勇士の奥さんや、未亡人達の奮起が望まれている。[食料へ心遣ひ][世話は奉仕で][器具は不十分](学校や宿舎の机、食卓など。[教育法に苦心](一切の教育方針を地許にまかせてしまうか・・・)。
38	19.09.06	岩井と浦富に疎開―岩美郡300学童に万全―	4日、長田校疎開担任調導2名と関係者による受入対策協議会を開催。副食物は郡内で全部引き受けること、授業は旅館、授業場、学校等で実施し、黒板など授業用資材は先方から持参することなどを決定。
39	19.09.08	地元で保健に協力―疎開学童の医療に留意―	厚生省は、6日、(疎開)関係地方長官、医師会長、歯科医師会長に通牒(寮舎付近の医師を嘱託とし常時指導、医薬品を疎開地付近の薬店に置く、伝染病の注意など)。
40	19.09.08	地元で保健に協力―疎開学童の医療に留意―	文部省は、6日、地方長官宛通牒を發す(注意事項、常備応急薬、医薬品の配給など)。
41	19.09.12	疎開学童点描	三朝温泉岩湯旅館主人知久馬惣平さん
42	19.09.12	純朴な町民に迎へられて集団疎開学童ら入居―神戸市長田校 先発隊浦富町に疎開―	10日、長田国民学校、児童先発隊79名、岩美駅に到着。竹間・片山旅館へ。
43	19.09.12	受入れ態勢は万全	鳥取県視学、浦富町長の談
44	19.09.12	きのふ歓迎式	疎開学童歓迎式を浦富国民学校で開催。
45	19.09.12	地元の歡呼に迎へられ疎開学童ら到着―神戸市中場校から澁江町へ―	澁江町には、中場校(6年生男女62名宛、5年生男子48名、計172名)が11日に到着し、受入式。12日、地元学童といっしょに通学。疎開学童の荷物は、9日に到着済み。
46	19.09.12	臉に溢る感謝の涙―子供は嬉々、父兄も御安心あれ―学童集団疎開東伯入の風景	11日朝、東伯郡に約1000名が到着。松崎に千歳校207名、関金に川池校99名、三朝温泉へ■■■4名、池田校169名、室内校164名)
47	19.09.15	疎開学童に心の糧―疎開作家を陣頭に教化運動―	澁江町への集団疎開児童到着を機に、高麗村出身の農民作家古志太郎氏を中心に疎開学童教化運動に関し協議進捗中。
48	19.09.19	疎開学童に病氣対策	厚生省は、18日、疎開学童医療衛生協議会を設置を決定(保険(7)、医療、薬品、防疫などを中央で把握し、徹底した衛生施策に乗り出すため)。受入県衛生課長を19日東京、26日大阪、29日福岡に集め、協議会を開催する。
49	19.09.21	どうぞこれから仲良くして下さい―倉吉駅前で学童受入式―	19日、川池校3〜6年生202名が倉吉駅に到着。なお、赤碓町に道場校100名、浅津温泉に千歳校150名が到着。また、17日に荷物は到着済み。
50	19.09.22	青白い顔も黒くなった―疎開学童の放課後―	三朝温泉では、11日に疎開してから毎日、放課後のひとときは魚とり、イナゴとり等でいそがしい
51	19.09.24	疎開教育を統一―大日本教育会から意見書―	東北地方を視察し、結果は「良」であるが、部分的には修正すべき点有りとして、文部省及び関係当局に意見書を提出(疎開側の代表機関を常駐、疎開教育の方針を明示、指導監督の機構確立、越冬対策、作業員の増加と手当の増加、面会制度の確立)
52	19.09.25	疎開対策を強化―県に受入協議会を設立―	防空総本部は、全国各都道府県(沖縄は除く)に「疎開受入協議会」を設立。受入態勢の積極的整備と強化をはかる。
53	19.09.27	神戸の学童―赤碓校へ疎開―	赤碓国民学校では、道場国民学校初3男53名、初4女33名が疎開。19日に到着、受入式。翌20日、入港式後、授業。
54	19.09.27	古城内政部長 疎開協議会へ	鳥取県内政部長、30日に神戸市で開催される学童疎開協議会に出席のため、29日出発。1日帰県の手配。
55	19.09.27	疎開の連絡に兵庫県協議会	兵庫県内に「兵庫県学童疎開連絡協議会」を設置、30日に第1回協議会を兵庫県庁で開催し、疎開先の選定、学童割当の件、疎開先における校舎宿舎の件、教育用膳の件、物資配給調達の件、学童及び物資の輸送等について協議する。
56	19.09.28	岩井と浦富で疎開状況検討	岩美郡地方事務所では、27日、岩井町と浦富町で、受入学童の食生活に関する問題を中心に関係者が懇談会を開いた。
57	19.09.29	■■■郷の涵養へ―■■■少年団から疎開学童指導要綱―	疎開学童指導要綱を定める(地元少年団員と親和提携し、郷土の発展に奉ぜしむ。強靱なる自立的精神の涵養につとめる。生活力を豊かならしめ、戦力増強に挺身させるなど)
58	19.09.29	疎開学童も暫く辛抱を―岩井と浦富―	日岩岩美郡支庁理事会で、慰問品として郡内各戸からもれなく餅1ヶ、大豆ソラ豆各1合宛供出することを決定
59	19.09.29	疎開学童も暫く辛抱を―岩井と浦富―	27日、岩美地方事務所は、疎開側と受入側の宿舎、教育、食料等の諸問題を課題に懇談会を開催。未だ不備な点が多いので地方事務所、地元でできるだけ整備に努める。食料は、要望通りを確保することは困難であり、今暫く現状のまま辛抱してもらうこととなった。
60	19.09.29	疎開学童を健康に―諸対策語る草野衛生課長―	疎開学童の衛生諸問題に関する中国、四国、近畿各府県主務課長会議(過日、大阪にて開催)に出席した草野鳥取県衛生課長の談「伝染病の早期発見、防疫的措置を強化する・・・」

No	出典(昭和)	見出し	内容
61	19.09.30	疎開学童の衛生—蔓延し易い皮膚病に注意—学校衛生	皮膚病、シラクモ、ゼニタムシの症状と、治療法
62	19.10.02	疎開地方に新作紙芝居	9月16日、印刷紙芝居協会は、既製の紙芝居360組を文部省に寄贈。近くこれを全国の疎開地に配布するとともに、今後文部省と協議の上、疎開地地方学童向けのものを作製することになった。
63	19.10.03	疎開学童協議会から一細く長く協力を—古城内政部長婦来談	2日に、1日兵庫県庁で開かれた学童集団疎開受入状況に関する協議会に出席の内政部長談「教育方針は、分教場主義でいくが、地元の学校が全面的に協力せねばならぬ問題で、他県の子供と思わずに全力を挙げて援助せねばならぬ。現在の疎開地には無医村はないが、伝染病などに注意。今後は、働勞奉仕も実施する。冬の燃料として、国民学校高学年の学童を動員して、自家製炭を実施し、疎開学童に温かい冬を迎えさせたい
64	19.10.04	疎開学童理髪—床屋さん奉仕—	2日、米子市の理髪屋が公休日を利用して、淀江町の疎開児童の理髪奉仕をおこなう。
65	19.10.05	学童疎開に対処—協議会設置決る—万全の措置を審議運営	10月29日、閣議決定で文部省内に「疎開学童対策協議会」を設置。4日に情報局が、疎開学童対策協議会規程を公表。5日には第1回疎開学童協議会を開催するが、幹事会はすでに3日に開催され、冬季対策・運営に対する緊急対策(付き添い職員の見直し)・視察に関する件を決定。協議会に提出決定の上は、具体化する。
66	19.10.05	疎開学童の保健へ—医学博士会で挺身隊結成—	日本医学博士会は、医療挺身隊を結成し、近く疎開学童の集団検診巡回医療を行う。その実施調査のため、9日に各地に調査隊を派遣し、疎開学童に多い病気の種類と必要な薬品を調査。遅くとも本月下旬、各地回診に着手する予定。
67	19.10.06	机違る疎開学童—二部教授解消に自助自奮—	倉吉町では、机や椅子の不足から、成徳国民学校で午後授業を受けているが、普通授業にかかろうと不足な机椅子の作製に自ら取りかかった。
68	19.10.07	学童の縁故疎開—鳥取市は倍増—	鳥取市には、去月30日現在、480名。京阪神地方の学童が多数。
69	19.10.07	学童疎開関係協議会	県教育課は、関係方面との打ち合わせを開催。協議事項(保健衛生、経費、査察指導など)、視察事項(施設の改善整備ならびにその資料・数量、生活物資の配給状況など)
70	19.10.10	土地に馴染めよ子等よ—東伯郡疎開学童対策懇談会報告書—	東伯地方事務所では、「受入学童取扱対策懇談会」を三朝をはじめ各疎開地に於て開催してきたが、去る5日倉吉町を最後にいったんこれを打ち切り、各方面の問題を基礎に具体策を考究中であるが、郡内疎開地区で採り上げられた共通問題及び希望などを報告するとともに、今後の共通指針とする。(食糧関係、オヤツ、冬季対策、授業、娯楽)
71	19.10.10	買出し兼て面会—愛児のために絶対お断り—	東伯地方事務所では、集団疎開学童の諸政策に万全に期するため、先般来、各地疎開先に付近農業会長、町村長、学校長、旅館組合等を招いて懇談会を遂げつつあったが、去る9日の倉吉町懇談会を最後として打ち切り、各所の総合意見を取り纏め、疎開学童取り扱いに関わる具体的対策を樹立することとなった。同事務所では、「困るのは、買出しという目的を兼ねて面会に来ることだ」「この施策は、すべて戦力増強の一環である」「いったんお預かりした以上、我々が絶対責任をもって育てていく決心である」
72	19.10.10	学童受入対策総合連絡会議	鳥取県では、10日、疎開受入の全般に関して、関係地方事務所長、町村長国民学校校長並びに庁内関係各課長と連絡打合会を開催
73	19.10.10	疎開学童用木炭を割当	鳥取県では、県民の暖かい協力によって自家用製炭の一部を確保する。学童1人あたり1ヶ月5キロを目標とし、温泉地では大体その7割程度……各郡に生産量を割り当てる。(割当量略)
74	19.10.10	医療用品は一括増配分から	学童の医療および保健指導、ならびにこれに要する医薬品の配給については、集団疎開学童向けとしての配給は特別の場合を除き、これを行わず、今後、県として毎4半期の割当数量中に増配を受ける予定
75	19.10.11	海後宗臣「疎開教育の今後」	「園に挿げた子」「教室の教師が新しい生活教育実践者となった」「単なる逃避ではなく、教育建設力の発揮になっているという事実を理解すべきである」
76	19.10.13	疎開児童に朗報—食ふこと寝ることに万全—	鳥取県では、疎開学童のうち十歳以下の児童に対しては、従来1日配給量の米1合9勺だったが、これを11歳以上の学童配給量と同様に2合8勺まで引き上げる。宿舎・教場等に必要な資材も既に木材120石、釘48樽を出しているが、今後さらに木材100石、釘もできるだけ配給する。また、日婦県支部では、陶器食糧確保に備えるため、大豆の各戸一握献納運動を全県的に展開する。
77	19.10.21	疎開児童へビタミン剤	厚生省は、冬を迎えるので、デフテリア予防注射薬を疎開地買薬店に置き、ビタミン錠を11月中旬から3月末まで、毎日一人一球づつのませることとした。
78	19.10.21	神戸から視察—東伯の疎開学童—	神戸市長代理ら、18日倉吉着後、成徳・明輪国民学校、学童たちの宿舎を視察。三朝村大橋旅館で開催された懇談会に出席、主要問題として、長靴は神戸市から特配を申請、配給米は一人あたり3合3勺配給するよう要請あり、近日中に実現するはずである。
79	19.10.23	疎開学童に吸入器酒精	文部省は、冬季対策として、厚生省の協力により、疎開先宿舎に吸入器酒精性アルコールを特配する
80	19.10.25	疎開学童に炭の温い手	東伯郡地方事務所では、冬季採暖対策として、学童1人あたり5斤(キログラム)の割合で受入各町村が自家製炭確保をはかっているが、この外に受入各町村では自発的に木炭20俵宛を供出する
81	19.11.04	疎開学童に慰問音楽会	西伯翼社は、郷土の童謡や唱歌で疎開してきたお友達を慰問しようと、米子市就將校と、4日淀江校を訪ね、交流慰問音楽会を開くこととなった。11日には、御来校でも同様に開催。

No.	出典(昭和)	見出し	内容
82	19.11.08	医学徒も動員―疎開学童の巡回医療に当たる―	文部省では、医学徒を従来勤労働員から除外していたが、今回適所に動員することに決定、差し当たり女子医学徒を集団疎開児童の巡回医療健康指導にあたらしめることとなり、7日地方長官学校長などに通牒した。
83	19.11.09	僕はますます元気です―澁江町疎開学童も稲刈―	澁江町の道場国民学校の児童の様子。稲刈奉任、大山登山など
84	19.11.16	受入態勢を拡充―疎開強化に対策を協議―	20日、鳥取県は、疎開受入協議会を開催し、左記事項を協議(縁故疎開学童教育の件など)
85	19.11.16	疎開学童視察	貴族院研究会学童疎開視察の鳥取班一行が22日来県、青谷町・倉吉町を視察し、同夜三朝温泉に1泊、23日に澁江町を視察の筈
86	19.11.16	岩美郡の冬季対策	岩美地方事務所は、22日、冬季対策として、食糧・薪炭問題を協議する予定
87	19.11.16	疎開学童に無名の親心	11日、倉吉町で疎開学童に鉛筆1本でもと、30円を差し出した一婦人が、東伯郡灘手村の石鹿キシさんと判明。
88	19.11.28	疎開視察に三島子来県	文部省参与官三島通陽子、本県の学童集団疎開実施状況視察のため、30日に米子駅に来県、12月1,2日両日県内学童疎開地の諸事情を視察、3日帰京する。
89	19.11.28	疎開寮母講習―六日成徳校で―	12月6日、寮母の知識見識を深め、寮母としての十分な資質を備へさせるため、県及び神戸市の主催で、学童集団疎開寮母練成会を開催する
90	19.11.28	疎開寮協議	12月4日、学童集団疎開寮舎代表者会は、県の主催で開催。寮舎の設備・炊事・冬季対策の件などで協議する予定。
91	19.12.03	受入状況は上々―三島子、疎開学童視察談―	文部参与官三島氏ら一行、30日来県、1日澁江町・三朝村、2日松崎村・吉岡村の疎開受入状況を視察した。なお、一行は3日鳥取駅発。
92	19.12.06	疎開児童も製炭に奉仕	岩美地方事務所では、岩井・浦富町に集団疎開してきた児童のため、付近町村の農家からゴム靴に代る「薬長靴」を供出せしめ、木炭も極力節減消費するため、農村よりコタツを集めて楽しい正月に備えることになった。また、郡婦人会では、慰問品(大豆、黒豆、乾芋など)を送る。
93	19.12.06	疎開者へ下駄	岩美地方事務所では、集団疎開学童および附添訓練に対し、戦時下駄を岩井国民学校へ101足、浦富国民学校に43足配給する。
94	19.12.25	疎開学童へお年玉	23日、全国玩具統制組合は、疎開地で初のお正月を迎える全国疎開学童へのお年玉として、予算8万円を組んで愛国カルタ、羽子板、千代紙などを、それぞれの学校宛に送付した
95	19.12.25	東伯郡万全	東伯地方事務所では、本月から来年3月までの配給案を作成。
96	19.12.30	疎開学童のために製炭―赤崎校児童奉仕―	赤崎国民学校高等科男女児童は、26日から疎開児童のために、炭焼奉仕を勤行、荒天を冒して成美村の山林を伐採しているが、今明日中に火入れができる見込み。
97	19.12.31	疎開児童優待	澁江町国民学校に疎開中の道城国民学校児童を来る1月1日、各戸に2名宛招待し、新年の喜びをともに味ふことになった
98	20.09.22	臨時列車運転	運輸省は、今月中に児童数、疎開先地名、荷物数などをまとめ、10月3日までに関係者から運輸省に輸送を請求させることになっている。出発の際と同様、増結臨時列車の運転を行ふ。
99	20.09.22	疎開学童遠親元へ―第一次は来月早々に―	文部省は、12月までに疎開学童は家庭に復帰させることに決定、21日に発表。第一次は10月早々には親元に帰る。なお、学童疎開に協力した地元町村に対しては、文部大臣から近く感謝状を贈る。